

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第10号

事務連絡（高礼場）

◎ 29年度の開講巻頭言

◆ 新しき年の始めの…

講師 木村修一

初春の今日降る雪のいやしけ吉事（よじ）。これは、万葉集の大尾を飾る大伴家持の歌です。

正月の歌ですが、初春を陽春に、降る雪を咲く花に替えれば新たな世話人体制で新年度を迎える現在の倶楽部には、ピッタリの歌です。

川口さんにはいはずれ復帰してもらおうとして、バトンタッチされた岸さんを始めとする世話人の皆様には、あまり無理はせず、しかしながら丹波の歴史文化を力強く牽引すべく倶楽部を発展させていただきたくと切に願っております。

◆ 新役員になって 矢持 章一

川口前代表が家庭の事情により休会されました。その為役員の補充が必要となり、入会年度が古く今までにこの倶楽部から多くの恩恵を受けた者の一人として大切な組織の一端を担うことになりました。

ご協力をお願いいたします。

発行・編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部
連絡先 090-8882-1576
1

◆ 役員の主な業務分担について
渉外、会報発行、茶話会、教室予約、緊急連絡、総会対応等は岸が、講師送迎、会計、ファイルワーク（FW）検討等は小西が、例会の受付、連絡、出席簿管理等は矢持が、会計監査等は細見が担当します。

川口前代表のような的確な指導や精緻な運営は出来ませんが、皆様方のご指導と鞭撻を受けながら、役員一同、精一杯取り組んでまいる所存です。

何とぞ、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（役員一同）

☆ 五月例会

日時 5月13日（土）

午前十時

会場 柏原住民センター

会場準備（敬称略）

矢持章一、齋木茂明、細見典子

足立正春

☆ 六月例会（会場変更 注意！）

日時 6月10日（土）

午前十時

会場 春日住民センター

会場準備（敬称略）

岸孝明、佐中ますみ、

荻野雄一郎、荻野節子

☆ 役員報酬の是非について

先日の総会において提起された役員報酬について、役員間で考え方を整理して回答いたします。この趣旨ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

会員は、自主的に古文書を学ぶために参加し、会の活動には自発的に関与している。また、会員は権利において平等であり、会費徴収も平等である。その上で、収入は会費であり、市県の補助金も受けていない。

支出については、需用費・役員費・謝金・使用料・旅費・予備費の項目があり、会の運営上必要な経費については全て計上され、それに即して活動に要する費用は正当に支出されていると考える。ただ、提起者は、役員が請求を遠慮しているために、結果的に個人負担が生じているのではないかと危惧されており、取材費用など、自分のためになると確信している費用は個人負担が当然である（と考える）

報酬は役員としての役職に対する対価と考える。対価を貰うと、義務と責任も負う事になり、自発的活動と自負する我々は、仕事になるのは嫌だと思っている。

収入に合わせた支出を決めざるを得ないので、例えば、謝金の講師料についても正当な額とは言いが、木村講師のボランティア精神

にすぎない、これだけの対価で辛抱してもらっているのが現状である。収入が増えればそれを第一に考えなければならぬ事、また、自発的で平等な会の精神から、役員報酬を貰う事は会費収入からの支出金である以上、役員は会費を少なく払っているのと同じ事になり、会費負担の平等性から疑義を生ずる。

以上の事から、多少の余剰金があるからと言っても、全会員から徴収した資金であり、それは将来、全員が利益を得る新規事業等に支出されるべきであると考える。

当面、現状の収支においては、役員報酬を計上すべきではない、現役員はその事を諒承の上で役員についている。

但し、役員においては、正当性が認められると思われる経費についてはしっかりと請求し、会計監査においてその可否を判断してもらう事を原則とする。

（文責 岸 孝明）



お花見しようよ!!
日曜どうでしょう 岸

自己紹介(口よ)

◆ 氷上町 細見 典子様
梁しみながらぼ(ぼ)ひ(ひ)

私が古文書倶楽部に入会した動機は、退職後、書道を始めたのですが、草書や変体仮名を正しく読んだり書いたりすることが難しく、古文書を学習すれば、より抵抗無く読めることができるようになるのではと思ったこと。また、小学校の頃から日本史が好きで、授業では、歴史上の人物に思いを馳せ、胸をわくわくさせながら先生の話に聞き入ったのですが、古文書学習からも昔の人たちの暮らしの喜びを楽しく学ばせて頂けそうだと思ったことです。

入会当初は、文字がさっぱりわからず、??の連続。でも、読み解く順番は回ってきます。半年間くらいは、友達と一緒に辞書に頼りながら予習を続けました。一行の文を読んでいくのに長い長い時間がかかり、疲れたね。「と言いつは読めない字をたくさん残しながら予習を切り上げたものです。現在は、当初と比べれば少しは読む力がついてきたように思います。しかし、新しい古文書を読むたび、次々と難解な文字が出現し、自分の力で解読できるのは、夢のまた

夢。

でも、古文書学習を通して、昔の人達が、知恵を出しあい、協力しあい、時には争ったりしながら、懸命に生き抜いていく、その人間味あふれる生き様を伺い知ることができる面白さ、どう調べても読めない字が、先生の「指導等」でわかった時に抱く霧がさっと晴れたような爽快感など、とにかく、わからないことがわかる楽しさを感じながら毎回勉強させて頂いております。

以前、知り合いの船城地域の野山の自治会長さんから、船城歴史探策研究会で披露される船城小学校初代校長の掛け軸の書の解読を頼まれ、他の人の知恵もお借りしながら、自分なりに解読してみました。

そんなふうで、今後更にも力をつけ、地域に埋もれる古文書解読のお手伝いができればいいなというのが私の夢です。

夢に終わりそうですが、会員の皆さんの熱意ある姿勢に支えられながら何とか学習を継続していきたいと思っております。

遠路足を運び、根気強く「指導頂いております先生には感謝、感謝です。

◆ 氷上町 荻野 節子様

石の上にも三年
丹波古文書倶楽部に入会して

早や6年目に入ることになりました。

歴史とか大の苦手で私には古文書は向いていないと一の足を踏んでいきましたが、夫が一足先に入会し、1回目の講義の後、いきなり高額な辞書を3冊も買ってきたものですから、使わずに置いておくだけにならないかと心配になり、私も入っておこうと思っただけです。

講義1回目は何が何だか、ただ夢中で、余程復習 予習をして行かないとついて行けそうになく、大変だなと思っておりました。

辞書も1年目は要領よく使えませんでした。むずかしいね「天変やね」と先輩に言つと、「分らんから来てるんやん」出来へんかつてもいいわんや」と励まされ、続けることができました。

お陰さまで5年間で大いぶ読めるようになったと思っております。苦手としていることや知らないことを知ることが出来、勉強の機会を持てたことは、とても有難いことだと思っております。

もともとこの趣味はテニスや卓球、パンやお菓子作りだったので、が、趣味は古文書の読解」と言えるように少しでも長く続けたいと思っております。

皆様、今後共々いっしょに頑張りたいです。



編集後記(金棒引き)

かわら版は知らず知らずのうちに丹波古文書倶楽部の一年間の活動記録になっている事に気付かされました。

第10号までに自己紹介を掲載できましたのは、16名の方です。また、随想や情報提供を戴いた方が4名です。

自己紹介記事がまだのお方は、是非、左記岸孝明宛送ってください。地域史の情報や随想等、紙面を充実させるための情報提供もふるって応募ください。

Fax 0765-72-0615-1
〒 669-3615
丹波市柏原町大新屋369-1-2
イーメール
t.kishi@cello.ocn.ne.jp

岸 孝明